

## 1 日時

令和2年12月10日(木)13:30~15:00

## 2 実施方法

Web 会議による

## 3 参加者

- 【信州大学】東原特任教授、村松教授
- 【長野市三本柳小学校】宮澤校長 【栄村立栄小学校】宇佐美教諭
- 【佐久市立中込中学校】瀬下教諭 【諏訪清陵附属中学校】五味教諭
- 【学びの改革支援課】曾根原課長、小池義務教育指導係長、一色主任指導主事
- 【東信教育事務所】中澤指導主事
- 【中信教育事務所】山浦指導主事
- 【総合教育センター】松原情報・産業教育部長、安松専門主事
- 【長野県企画振興部】大江様（代理 丸山様）
- 【長野県市町村自治振興組合】小林様
- 【一般財団法人特別支援教育士 認定協会理事・公認心理士】両川 晃子
- 【県教委】丸山主任指導主事、松坂指導主事、志摩指導主事

## 4 内容

### (1) 教育クラウド ID の運用状況報告

- 【義務（松坂）】
  - ・教育クラウドを準備している市町村が7割。これから予定している市町村がおおよそ3割。
  - ・クラウドの種類は、45%がGoogle、38%がMicrosoft。
    - ー特徴的なことは、SKYMENUクラウド等を予定している市町村もある。
  - ・クラウドIDの発行は、おおよそ7割に市町村で準備している。
  - ・命名規則は10月の段階で6割の市町村で採用している。
    - ー当初、初年度は4、5割を考えていたが、予定よりも順調に広がっている。問い合わせもあるので、さらに広まっていく見込み。
  - ・セキュリティポリシーの改訂を行う準備をしている市町村はまだ3割。
    - ー「セキュリティポリシーの改訂」という言葉がむずかしいので「子供たちが端末を持ち帰るルール」「使い方のルールなど」と置き替えて市町村や先生方にもご協力願えるような方法を考えていく。

### (2) 県立学校における教育クラウド利用と端末持ち帰りルールについての説明

- 【高校（丸山）】
  - ・ほぼ全ての生徒が教育クラウドIDを持っている値になってきた。若干温度差もある。
  - ・利用状況としては、Googleのクラスルーム等の利用が進んでいる。
  - ・持ち帰りのルール等、情報セキュリティポリシーと併せて対応をしている。
    - ー本来であれば1月ぐらいに完成していたかかったところですが、作業が遅れている。

- ・現在は、コロナの対応必要に応じて生徒に持ち帰らせてよいということになっている。
  - －他県の資料等も参考にしながら対応していきたい。

#### 【村松】

- ・クラウド ID や、命名規則は順調であるが、持ち帰りのルールやセキュリティーポリシー等が次の課題となる。

### (3) 諏訪清陵附属中の実践報告

#### 【五味】

- ・1人1台端末の環境下の実践について
- ・生徒や保護者への教育クラウドの活用方法
  - －ルールではなく心得などとしたほうがよい。自分たちで考える余地を残しておきたい。細かいルールを作ってもすぐに改訂が必要になる。
  - －三つのSを大切にしている。Syudy (学習のために使う) Safty (安全に使おう) Self-control (自制心を書こう)
    - －ICT 管理局設置。有志の生徒で組織。ICT 活用をよりよくすることを生徒自身の手で目指している。
- ・アカウントの情報は、生徒と保護者両方に連絡することを大切にしている。
- ・デバイスの持ち帰りは、事前に借用願を使っている。
- ・教員への教育クラウド
  - ・「ICT 機器の活用は子どもの力を伸ばすための手段である。」
    - －1人1台端末を使わなければならない、ではなく、必要だから使うという意識を大切にしている。心得で示して、活用方法がありかなしか迷ったら立ち返れる場所としている。
- ・活用方法は、「ねらっていくところ」を具体的に示す。
  - －「見える化」「CBT」「繰り返し活用できる」など。
  - －個別最適化では、探究的な学習で活用できている。
- ・今取り組んでいるのは、不登校生徒に使えないか検討している。
  - セキュリティーレベル2以上のものは、クラウドには入れない等のルール。
- ・「勝手に設定を変えられてしまった。」等、ICT 管理局設置の生徒のほうから話してもらう。指導ができる機会が増えたととらえていく。
- ・学校での端末の使い方を、プライベートでの端末等の使い方にもつなげたい。
- ・一番徹底したいのは、アカウントとパスワードの管理、ログアウトし忘れ。
- ・課題は「やらない理由」にするのではなく、「超えるべきハードル」として前向きに実践する。

### (4) 意見交換

#### 【瀬下】

- ・具体的に実践事例がありがたい。教員の意識が追いついていないので、このような資料をもとにして意識を変える。

#### 【宮澤】

- ・端末が手元にないと、事例がない。今回のような事例を導入される前に教職員で共有しておくことが大事。
- ・市町村のネットワークに課題がある場合もあるので、現状を把握して考えていく。

### 【宇佐美】

- ・栄村では、共同調達により、1人1台端末が先月末に入り、今週から子供たちが自由に使えるようになった。
- ・子供たちは楽しみ。先生たちが心配。
- ・ルールづくり、子供たちと考えながら使い方を考えていくことが必要。
- ・クラウドの準備が進んでいない。ドメインを取得するところで止まっている。先行事例参考に先生たちと研修を深めたい。

### 【中信】 中信教育事務所

- ・6年生でオンラインの授業を校内で行っている実践。休業に備えて社会科の授業。
- ・端末を使った授業の仕組みや質を担保していくことが課題。

### 【南信】

- ・子供たち自身で使い方を考えさせる仕組みづくりが大切。

### 【総セ松原】

- ・清陵中の取組はモデルになる。

### 【安松】

- ・総セの講座もクラウドを使った講座を考えないといけない。

### 【村松】

- ・保護者の方には、パスワード以外に、何か伝えていることは？

### 【五味】

- ・家庭に伝えようという段階ではないが、来週講演会があり、そこで伝える。

### 【村松】

- ・飯田市、保護者向けの資料。  
課題はあるが、それを越えていこう。子供たちが主体的に取り組むこと自体がよいモデルになる。

## (5) 最近の国の状況についての説明（東原特任教授）

- ・長野県うまくいっている。順調さがわかるが、先生方はそのことが認識はできない。
- ・良い情報がいっぱい入る。
- ・トラブルはチャンス、自己調整力をつけるチャンスという雰囲気が共有されたことがよい。
- ・この雰囲気が広く伝わっていくことを望んでいる。
- ・補正予算、小中学校から高校に拡大。
- ・高校ではBYODで国は用意しないと考えてきた。高等学校も一人一台で変わらないということを共有。
- ・来年4月以降の計画、来年度のことがずいぶん前倒しに動き出している。
- ・1学期に募集かけて秋になる。3月までに成果を上げる。
- ・4月からスタートできるようにしている。予算が通ったらやれるように、募集をかけている。
- ・今から用意する必要がある。
- ・円グラフ市町村の進捗状況、長野県がやっていることが呼び水になって全国の市町村に調査がかかる。
- ・まわり50キロに声をかける。チェックリスト利用していくとよいのでは。
- ・中等教育資料に最近の動向と、ねらっていった方がよいことが掲載。一段落したら参考に。

### 【村松】

ルール、持ち帰り、ほかのところで参考になりそうな話。

## 【東原】

- ・清陵中の実践、喬木にもある。長野県の特徴的。
- ・町田市の小学校、臨時休業中に chromebook の持ち帰りを行った。  
子どもたちから、約束ごとを決めた例。先生は子どもを信じて待つ。それが大切。  
小学生でもかなりのことができる。
- ・一つ徹底したらよいこと。流出した情報が消せないということを知らない。
- ・デジタルは予想つかない大変なことになるという教育はもう少しきちんとした方がよい。
- ・先生も児童生徒にも情報伝達をしっかりとやりながら、主体的な考えで解決できるようにしていく。

## (5) 市町村調査内容について

### 【松坂】

(資料説明)

- ・家庭への端末持ち帰り 11.7% 生活の中に位置づいていくことを時間とともに
- ・端末の持ち帰り、資料配布できる。10% 準備 66% 4分の1には通知せず。
- ・迅速な対応の仕組み
- ・フィルター 順調にいく、窓口も設置。
- ・セキュリティーポリシー 遅れ気味ですが
- ・端末整備順調、市町村の担当も頑張っている。
- ・12月の調査 端末の導入がいつになるのか。回線速度を把握しておく。

### 【村松】

- ・飯田市 県HP公開している。
- ・清陵中の取組を共有して広めていただきたい。

## (6) デジタル教科書について

### 【志摩】

(資料説明)

- ・利用状況、利用の方向性、スケジュールの見通しの3点
- ・令和6年度の小学校の教科書改訂を契機に本格的に導入。
- ・スケジュールの見通し、ポイントは3つ。①導入費用の補助。②対象学年と教科 ③スキーム
- ・県の取組(二つ)
  - ①復旧事業促進の活用
  - ②効果的な実践の紹介

### 【東原】

- ・教科書はデジタルか紙かを選ぶ時代がやってくる可能性もある。
- ・デジタル教科書の無償、有償についても議論が深まる。
- ・おそらく実証事業という形で、希望のある自治体を募集する可能性がある。希望がある場合は、検討するとよい。
- ・使用制限2分の1についてもより議論されるだろう。

## (7) インクルーシブ教育における GIGA スクール構想実現及び利活用について

### 【特別支援教育課 鶴田】

(資料説明)

- ・ デイジー教科書 拡大読み上げ反転ができる。1人1台端末で今後に期待できる。
- ・ アイパッドを整備してコミュニケーションなどに利用。
- ・ 活用が広がるのかの不安 特別支援教育課でも
- ・ 両川先生や一般企業にもかかわっていただいている。
- ・ 障がいがあるなしにかかわらず情報活用能力を身に付けられる環境を整える。
- ・ チラシを作成
- ・ マイタブレット 標準でついている読み上げ機能、拡大鏡を使用。

### 【両川】

- ・ 深い知識、専門性、学術的な裏付けをもってインクルーシブを考える。
- ・ 個別最適化、障がいに合わせたカスタマイズ。端末のカスタマイズに負担、不安がある
- ・ エンジニアの協力必要。

### 【東原】

- ・ アドバイザー事業では、ガイドブック作成。
- ・ 文科省に質問をして、こちらの取組を伝えることもできる。

## (8) 来年度検討事項

- ・ 年度内にやること、新年度にやることをご検討して頂きたい。

### 【曾根原課長】

- ・ 県教育委員会だけではできない部分。この委員会で様々にご提案いただき、ご検討していただくことでここまで進めてきたことに感謝。
- ・ 市町村に調査をかけ、やらなきゃいけないことを動く。自動的に高まっていく方法は効果がある。
- ・ ICT 教育推進センター(仮称)の設立に向けて動いている。益々ご助言をお願いしたい。